



涌小通信

知内町立涌元小学校
～重点教育目標～
主体的・対話的に学び、
自らを磨き、高め合う子
平成30年9月28日発行

子どもの良さを引き出し、伸ばしてあげる ～子育ての一番大切なことは、理解してあげること～

18日（火）小谷石地区、19・20日（水・木）には涌元地域の祭典が行われ、大漁祈願祭や本祭、そして子供会育成会による「ねぶた運行」が行われました。最終日となる20日の涌元地区のねぶた運行では、疲れの色が感じられましたが、ねぶた運行開始とともに、跳人の衣装を身に付けた人々が集い、涌元を元気づけるように練り歩き、大きな盛り上がりや涌元衆の一体感を感じることができました。大変感動しました。家庭・地域の皆様方からのご支援に心から感謝申し上げます。

ねぶたの踊りの中で子どもたちがやる気いっぱいになる曲があります。それは「智恵っ子よされ」です。ノリも最高、楽しいと感じられるからでしょう。「やる気スイッチ」をONにする曲です。

子どもの「やる気スイッチ」をONにするためのヒントとなるお話が、木古内町で開催された渡島PTA連合会主催『母親研修会』の教育講演会にありました。以下に講演会の内容をご紹介します。講師は 北海道出身の小説家、放送作家、脚本家の 西川 司（ツカサ）氏です。

- 自分は発達障がいの一つである「アスペルガー症候群」であるため、同じ場所で同じことを繰り返して行うことが苦手だった。当時で言う「はんかくさい子」だった。現在のように特別支援教育への理解が進んでいなかったため、当時は差別がひどかった。
- 母親は大変教育熱心で、1mの竹の物差し（裁縫用）を持って、かっちゃん（司）に一生懸命勉強を教えようとした。しかし、かっちゃん（司）は「1+1＝」の意味が理解できなかった。また、ひらがなや漢字等の文字を覚えるのに大変苦労した。後の検査の結果、空間認知能力が弱かったため、文字を上手に認識することができなかった。母親に対する恐怖心があった。
- 「どうして」「なぜ」というかっちゃんの疑問に対して、母親や周囲の大人は「いいから覚えろ」と怒った。誰からも自分自身の不思議や疑問に対する答えを教えてもらえなかった。また、何が分からないのか、どこが分からないのかをうまく説明できなかったし、上手にしゃべる（相手に伝える）ことができなかった。
- そんなかっちゃん（司）を理解してくれたのが担任であり、特別支援学級の森田先生だった。森田先生はかっちゃん（司）の考え方やものの見方を「面白い！」「すごい！」と言って認めてくれた。森田先生はかっちゃん（司）の話をじっくり聞いてくれて、共感してくれた。
- 森田先生は、勉強しないと困ることや勉強する理由を教えてくれた。勉強すると怖いものが怖くなくなることが分かった。勉強ができれば世の中で損をしないことが多いとも教えてくれた。
- 勉強は「覚える」のではなく、「声に出して、読んで、書けば身に付く」と教えてくれた。ただし、身に付くスピードには違いがあることも教えてくれた。森田先生はかっちゃんに安心感を与えてくれた。
- 森田先生との出会いが『小さな奇跡』を起こした。かっちゃん（司）は、めっちゃめっちゃ勉強した。勉強すると脳の中に立ちこめていた霧が晴れる感じがした。
- 子どもの悪いところを直すという押しつけではなく、子どもの良いところを引き出すことが大切である。

西川 司 氏とは 北海道出身
○手がけた放送番組には、
『お母さんといっしょ』『まんが日本昔ばなし』『火曜サスペンス』『世界まるごとHOWマッチ』他多数
○著書
『向日葵のかっちゃん』『異邦の仔』他